



陽光

Vol.11
通巻82号



「ひとらぼ」との出会い

「ひとにやさしいつわ」というほのぼのとした響きに惹かれ、それを作っている笠間の作家たち「ひとらぼ」に企画展の依頼をしました。

今回の展示会はその名の通り、隅々まで心配りに包まれたものになり、「ひとにやさしいとは？」と考える機会を私たちに与えてくれました。

食事の時、何気なくやっている口に食べ物を運ぶ動作、例えば右手にスプーンを持ち左手でお皿を傾けて最後の一口をすくいとる。赤ちゃんが成長とともにいつの間にかできるようになる動作なのかもしれませんが、頭ではなく身体で覚えているので、いつも右手でやっていることを左手でやってみるとその難しさに気づきます。病気で利き手が不自由になり、今まで出来た事が思うように出来なくなる。生活する上で当たり前だったことが当たり前でなくなってしまう。そんな思いをされている方が少なからずいることに、「ひとらぼ」は注目し寄り添うようにして、もう20年近く研究開発を続けられています。

代表者のお話では、お客さんによく言われるのが「今はまだ必要ない」だそうです。すでに高齢社会に突入していても、そして自分もいつかは介護される身になると頭の片隅で覚悟していても、実際に自分や身近な人が不自由な状態にならなければ、その必要性を実感できないのです。

それでも、今回の展示会では本当に必要としている人に出会えました。日立市から来たその女性は、ご主人の食事に使う器をじっくりと吟味して一枚のお皿を選んでいました。選んだポイントを尋ねると、お皿の上で魚をほぐしたり、肉を細かく切ることができる広さがあること、そして何と云ってもぬくもりを感じる風合い！と応えてくれました。

施設ではどうしても味気ない雰囲気になってしまう食事の時間、少しでも楽しんで食べてもらいたい。しかも介助する人にも使い易く工夫された器なら負担も軽く感じるそうです。最後に笑顔で「いい買い物が出来ました」と言われた時は、とても嬉しくなりました。

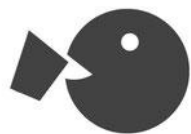
期間中はIBSラジオの生中継で、インタビューされるというハプニングがありました。夏の高校野球の試合が中止になったことで急遽取材を受け、「ひとにやさしいつわ」の説明をしました。

「楽しく食事をする」ことは、不自由があってもなくても簡単なことではないかもしれません。

「ひとにやさしい」とは特定の人だけではなく「誰にとっても優しい」ということ！

みなさんは毎日たのしく食事をしていますか？

(泉町ギャラリー「窯(YOO)」店長 筒井 まり子)



のみやすい



もちやすい



すくいやすい